

～新城市民病院での地域研修を終えて～

名古屋第一赤十字病院

新城市民病院での約 1 か月間の研修では普段の日常研修では味わえない様々な経験をさせて頂きました。「総合診療科」での外来業務や、訪問看護、訪問リハビリ、助産所見学、へき地診療所での研修など、多岐にわたります。その様々な医療現場の空気を肌で感じることで、地域の中核病院としての役割や、へき地医療、在宅医療の必要性を深く学ぶことが出来ました。

まず一つ目に、総合診療科として様々な主訴をお持ちの患者さんに対しての「問診力」を学びました。多岐にわたる鑑別疾患を頭に浮かべながら、患者さんの主訴だけでなく、生活背景や家族背景など、様々なアプローチから患者さんと向き合うことが大切であると知りました。「病氣」を診るのではなく「患者」を診る、という姿勢は今後の自分の診療現場で大変生かされることだと思います。

二つ目に、在宅医療の必要性です。今回の研修では、訪問看護や訪問リハビリを経験しました。患者さんのなかには、病院へ通院したくても出来ない方や、人生の最期を自宅で迎えたいと考えている方が大変多いのだと知りました。医療雑誌やニュースでは在宅医療についてピックアップされることも徐々に増えてきましたが、やはり現場に行くとその必要性を痛感しましたし、在宅医療を行う上での様々な困難、障害が存在することも学びました。患者さんにとっては自宅だけでの生活は精神的に閉鎖的な感情を抱いてしまうこともあり、医療者による交流で笑顔を見ると、やりがいや今後の在宅医療がなしえる可能性を感じました。

最期に、新城市民病院で行われた、毎朝の勉強会や EBM 勉強会、up to date、など様々な文献を目にすることが大きな経験となりました。地域医療を行う中でも、最新の医療情報を共有し、論文を定期的に取り込むことで、最新の医療を患者さんに提供していることを知りました。普段、あまり論文を読んでいなかったため、自分の中でも教訓になりましたし、患者さんにとってどの治療法が最もベストなのか、その選択肢を増やせることはお互いにとっていい事であると思います。積極的に文献に目を通すことを心がけようと思います。

短い間でしたが、その中でも本当に貴重な経験をさせて頂き、自分にとって得るものが多い、地域研修となりました。医師としてこれから多くの患者さんと接すると思いますが、どれだけ経験を積んでも決して驕らず、患者さんと同じ目線で医療を提供できるような人になりたいと強く思いました。1 か月間、本当にありがとうございました。